

浜松医科大学長の間接評価について

令和元年9月20日
浜松医科大学長選考会議

浜松医科大学長選考会議は、学長任命の日から3年間(平成28年度から平成30年度までの3事業年度)に係る学長の業績評価を実施しましたので、「浜松医科大学長の間接評価の取扱いに関する申合せ」第5に基づき、下記のとおり公表します。

記

1. 経過

(1) 第2回学長選考会議(平成31年1月22日開催)

中間評価の時期、評価区分及び実施方法など具体的な実施方法等について審議を行った。

(2) 第3回学長選考会議(平成31年3月27日開催)

第2回学長選考会議に引き続き、具体的な実施方法等について審議を行った。

(3) 第4回学長選考会議(令和元年6月25日開催)

第3回学長選考会議に引き続き、具体的な実施方法等について審議を行った。

(4) 学長から自己評価書の提出(令和元年6月30日)

学長から、学長就任時の所信書に基づいた自己評価書が提出され、令和元年7月8日に学内専用ホームページに公表した。

(5) 評価結果書(案)の作成(令和元年7～8月)

学長からの自己評価書を確認し、学長選考会議委員により評価結果書(案)を作成した。

(6) 公開ヒアリング(令和元年9月4日開催)

専任の教員を対象として、学長の間接評価に係る公開ヒアリングを行い、質疑応答を実施した。

(7) 第5回学長選考会議(令和元年9月4日開催)

公開ヒアリングでの意見等を踏まえ、中間評価に係る学長の業績評価の確認を行った。

(8) 評価結果書の確定(令和元年9月18～20日開催)

メール審議により、評価結果書の最終確認を行った。

2. 評価結果 別紙のとおり

国立大学法人浜松医科大学長業績評価 評価結果〔評価概要〕

<p>評価</p>	<p>学長として優れた手腕を発揮し、学長の所信と中期計画等を上回る実績を上げたと認められる。</p>	<p>評価対象期間</p>	<p>国立大学法人浜松医科大学長選考会議 平成28年4月1日 ～ 平成31年3月31日</p>
		<p>評価日</p>	<p>令和元年9月20日</p>
<p>内 容</p>			
<p>【教育】 大学の使命に基づき3ポリシーを策定し、学修成果基盤型教育へと変換し、教学PDCAサイクルを回すことで教育改善を行っていることは評価する。多角的な評価法を取り入れることで求める学生を選抜できる入試体制を構築したことは評価する。グローバルな教育を推進し、海外での臨床実習等の実施や海外交流協定校などからの留学生の受け入れにより、双方向性の国際化を進めていることは評価する。卒前教育と卒後研修をシームレスに行うために、カリキュラム改定により診療参加型臨床実習を増やしたことは評価する。看護学科大学院博士課程を設置するために、教員の確保、講座及び専門分野の枠組み等の検討を進めていることは評価する。</p> <p>【研究】 本学の強みである「光技術の医学応用」と「地域企業との産学連携による医療関連の機器等の開発研究」への強力な支援を評価する。その中で、ナノスーツ技術発展のためのナノスーツ開発研究部の新設、学内組織の改組による産学連携・知財活用推進センターの設置、地域の産学の活動の場としての医工連携拠点棟の新築及び日本初の医科大学と工学系の共同教育課程の設置は今後のさらなる発展が期待される優れた取組みであり、評価する。加えて、外部資金獲得の総額も毎年増加を続けており、光技術の医学応用や、それ以外の様々な研究分野での発表論文の数も増加しており、それには学長裁量による学内研究費予算の毎年の増額が呼び水的な効果を発揮したと考えられ、これについても評価する。</p> <p>【診療】 患者第一主義の診療を実践するために、医療スタッフへ医療安全教育を徹底し、医療安全管理体制も強化しており評価する。また、高度先進医療・低侵襲医療の推進、ハイリスク分娩や高次救急の受入数の大幅な増加、平均在院日数の適正化、新入院患者数や手術件数の大幅な増加等は、安定的な病院経営、地域医療へ貢献に関する当初の目標を超えて達成されたと評価する。 家庭医療などの臨床教育システムの整備により専門医プログラムへの参加者が増加しており、評価する。また、認定・専門看護師も増加した。女性医療スタッフに対するサポート体制の構築は女性スタッフの職場環境を改善しており高く評価する。</p>			

【社会貢献】

「地域医療への貢献」では、浜松市との包括協定に基づく浜松医療センターとの連携強化、各医療機関や医師会、行政との連携による医療従事者や市民の啓発活動の実施、さらに総合診療教育センターや地域医療支援学講座の設置による地域社会への新たな貢献方策の開拓等、特に優れたものとして評価する。また「産学連携活動」では、共同教育課程(博士後期課程)光医工学共同専攻の設置や静岡大学の工学部、情報学部との連携強化、地元金融機関との包括連携協定締結、医工連携拠点棟の誘致および新築等を通じて、県西部地域の産学学連携の基盤を確立したと特に優れたものとして評価する。「災害対策」では、多くの参加者による実践的な防災訓練を実施して職員の防災に対する意識を著しく改善し、災害医療の中核として貢献できる体制を整えたことを特に優れたものとして評価する。

【大学運営】

「透明性と公平性を担保した迅速な意思決定」を所信に掲げ、副学長の増員や企画室の再編、医工連携拠点棟の新築をはじめとした設備投資、産学連携・知財活用推進センターの設置、IR室の設置、浜松医科大学基金の創設、浜松市との包括協定の締結、寄附講座の新規誘致及び国際化推進センターの設置準備等、種々の改革や機能強化が積極的・効率的に推進されており、優れている。なかでも、国立大学法人静岡大学との間で法人統合・大学再編を目指す合意を締結し、他に類を見ない積極的な大学改革に着手した実績は特に優れたものとして評価する。